

早期水稲の中間管理および 普通期水稲の田植時の注意点について

平成30年6月7日
京築普及指導センター
J A 福岡 京築

早期水稲（4月中旬～5月上旬頃植え）

○ 生育概況

田植えが始まった4月中旬以降、平年よりも気温が高く推移したため稲の初期生育は順調です。今年は梅雨入りが5月28日頃と平年より8日早くなっており、向こう1か月予報では降水量は平年並から多く、気温は平年並～高い見込みです。今後は中干しを早めに始める等、以下のことに気を付けて管理を行いましょう。

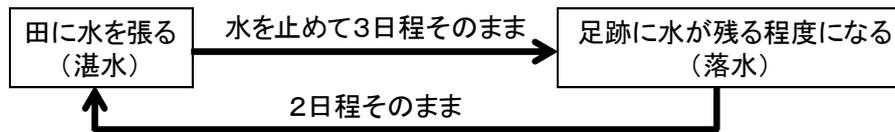
○ 今後の管理

1 水管理

4月中旬～5月上旬頃植えの早期水稲では、田植え後40日程度で有効茎数が確保（坪当たり60株植えで茎数18～20本、50株植えで22～24本）されますので、6月上旬～6月中旬頃に中干しを開始しましょう。

中干し終了の目安は、田面に小さなひびが入る程度です。田面が白く乾くまで中干しを行わないようにしましょう。

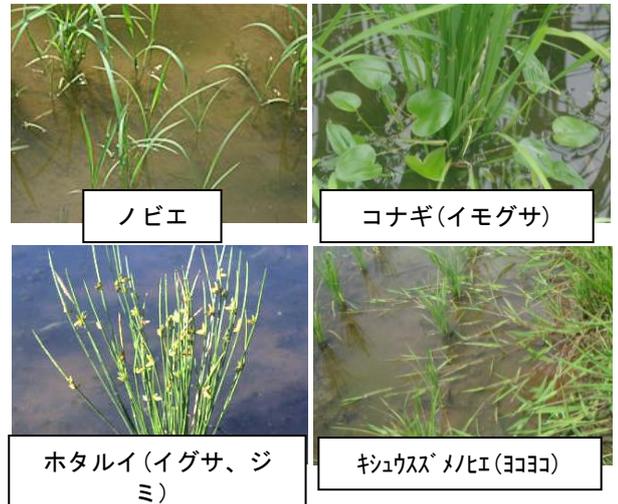
中干し後は、下図を目安に間断かん水（3湛2落）を行いましょう。



※幼穂が出来始めると新しい根は伸びませんので、中干し後は間断かん水により今ある根を健全に保ちましょう。

2 雑草対策

田植え後、右図写真のような雑草が残った場合は、残った雑草の種類に応じて、下表の除草剤から選択して使用してください。



除草剤、農薬の使用にあたっては、使用基準を確認して、周辺に飛散の無いように十分注意しましょう。

表1 中期除草剤（稲作ごよみ記載の除草剤）

対象雑草	農薬名	使用量 (10a当たり)	散布水量 (10a当たり)	使用時期	散布方法
ノビエ	クリンチャー1キロ粒剤	1 kg	25～100ℓ	田植え後7日～ L^{b} I4葉期まで	たん水
	クリンチャーEW	100ml		田植え後20日～ L^{b} I6葉期まで	落水
広葉 (イモグサ、 イグサ等)	バサグラン粒剤	3～4 kg	70～100ℓ	田植え後15～55日以内	落水
	バサグラン液剤	500～700ml		田植え後15～55日以内	落水
ノビエ+広葉	カービー1キロ粒剤	1 kg	70～100ℓ	田植え後15日～30日、 L^{b} I3葉期まで	たん水
	クリンチャーバスME液剤	1000ml		田植え後15日～ L^{b} I5葉期まで	落水

※クリンチャー剤は、キシュウスズメノヒエ（ヨコヨコ）にも有効です。

普通期水稻（5月中旬植え～）

○基肥の施用について

前年大豆を作付けしたほ場では、土壌に残っている窒素量が多く、倒伏の恐れがあるので、下表を参考に、基肥を稲作ごよみの基準の半分程度に減肥してください。
（※穂肥はこよみを基準に施肥してください。）

表2 稲作ごよみの基準の半分の施肥量（10a当たり）（目安）

品種	全層施肥	側条施肥
	ベスト444（14-14-14）	
夢つくし	15kg	13kg
元気つくし	18kg	15kg
ヒノヒカリ	20kg	18kg
ヒヨクモチ	25kg	20kg

※大豆後では、一発肥料は使わないのが原則です。
※しかし一発肥料を使用する場合は、基肥を基準の半分程度に減肥し、穂肥の時期に肥料が足りなくなる恐れがありますので、葉色を見て必要であれば穂肥を施用してください。

○除草剤の使用について

- 除草剤の1キロ粒剤の袋は箱施薬の袋と同じ大きさで、間違えやすいので注意してください。（※間違えて苗に除草剤を散布して田植えすると必ず枯れます。）
- 田植え同時処理について

近年、除草剤の田植え同時処理において薬害・効果不足が見られます。薬害・効果不足を防ぐためには、以下のことに注意して田植えを行ってください。

- ① 耕起、代かきを丁寧に行う。
（田面が固いと植穴の戻りが悪く、薬剤が根に直接接触れ、薬害の原因に。）
- ② 田植えは「ひたひたの浅水」で行う。
（水が少ないと薬剤が拡散せず、薬害・効果不足の原因に。）
- ③ 植え付け深度の確認。
（浅植えでは根が露出し、薬害の原因に。）
- ④ 田植後は直ちにたっぷり入水する。
（散布後に水が少ないと、効果不足の恐れ。）
- ⑤ 田植後7日間は落水、差し水をしない。
（途中で落水や入水を行い水を動かすと、除草剤の効果不足の恐れ。）



○ジャンボタニシ（スクミリングガイ）対策について

ジャンボタニシ（スクミリングガイ）は、田植え直後のイネを食害し、欠株等の被害を引き起こします。以下のことを参考に防除対策を行ってください。

- ① 田植後3週間（※除草剤使用時期を除く）までは「ひたひた水（超浅水）」管理を行い、被害軽減を図る。
- ② 田面が均平でないと水深の深い所が被害を受けるので、田面の均平化に努める。
- ③ スクミノンを10a当たり1～4kg浅水散布する。
- ④ 厳寒期（1月中～下旬）にほ場を浅耕（深さ5cm程度）して、越冬数を減少させる。



ジャンボタニシ
（スクミリングガイ）



浅水管理



ほ場内の凹凸が原因と思われる被害発生ほ場

早期・早植え水稻の収穫期および 普通期水稻の管理について

平成30年8月2日
J A 福岡 京 築
京築普及指導センター

○生育・気象の概況について

本年は、田植え後の気温が高く推移した影響で生育は進み、出穂期は昨年より1日程度早くなっています。また、長期予報によると今後も気温が高い日が続くと予想されており、収穫期は昨年より早くなると考えられます。

そのため、本情報を参考に、刈遅れないように適期収穫に向けた作業計画を立てましょう。

早期・早植え水稻

○収穫期予想について

品種	田植日	出穂日	成熟期予想	備考
夢つくし	4月22日	7月16日	8月16日 ~ 8月20日	※表は目安です。 今後の平均気温が平年より高いと、 収穫時期は早くなります。 実際の収穫時期はほ場ごとの熟れ 具合を必ず確認しましょう。
	4月29日	7月19日	8月19日 ~ 8月24日	
	5月6日	7月22日	8月22日 ~ 8月27日	
	5月13日	7月25日	8月26日 ~ 8月30日	
	5月20日	7月28日	8月29日 ~ 9月3日	
	5月27日	7月31日	9月1日 ~ 9月6日	

○今後の管理について

(1) 収穫前の水管理

収穫の1週間前までは間断かん水を続け、籾の充実向上を図りましょう（早すぎる落水は充実不足につながります。）

(2) 台風接近時の管理

成熟期に入っている場合は、台風が来る前に収穫しましょう。収穫まで1週間以上かかる場合は、深水にして倒伏や脱水症状を防ぎましょう。

普通期水稻

○出穂期予想

品種	田植日	出穂期の予想	備考
夢つくし	6月3日	8月4日頃	※あくまで、標準的なほ場での予想です。 ほ場ごとの出穂期は幼穂長を確認してください。
	6月10日	8月8日頃	
	6月17日	8月11日頃	
	6月24日	8月14日頃	
元気つくし	6月10日	8月15日頃	※幼穂長2~5mmで出穂20~18日前 (目安)。
	6月17日	8月17日頃	
	6月24日	8月19日頃	
ヒノヒカリ	6月10日	8月22日頃	
	6月17日	8月25日頃	
	6月24日	8月28日頃	

○病害虫防除について

(1) 基幹防除

いもち病、カメムシ類、ウンカ類等の被害予防のため、**必ず基幹防除を実施してください。**
 (防除薬剤は下表参照。) また、現在一部ほ場ではいもち病の発生が見られます。いもち病発生ほ場では、被害軽減のため**速やかに**防除を行ってください。

◆ 基幹防除薬剤 (稲作ごよみ記載の薬剤)

薬剤名	対象病害虫	10a当たり使用量
ノブラストバリア [®] 粉剤DL	いもち病 紋枯れ病 ウンカ類 カメムシ類	4kg

※液剤の場合

薬剤名	10a当たり使用量
ビームゾル	1,000倍
+モンセリンフロアブル	1,500倍
+キラップフロアブル	2,000倍

(2) 補正防除

本年は気温が高いため、**カメムシ類、ウンカ類の発生が多いことが予想されます。** 基幹防除を行った上で、カメムシ類、ウンカ類の発生が多い場合は、以下の表を参考に補正防除を行ってください。

<カメムシ類>

被害軽減のために、侵入源である畦畔や休耕田などの雑草管理を徹底しましょう。(防除薬剤は下表参照。) ただし、出穂直前になって草刈りをすると雑草に生息していたカメムシをほ場内へ追い込むこととなりますので、**畦畔の草刈りは出穂1週間前までに実施しましょう。**

◆ 防除薬剤 (稲作ごよみ記載の薬剤)

薬剤名	対象病害虫	10a当たり使用量	使用時期
キラップ 粉剤DL	カメムシ類 ウンカ類	3~4kg	収穫14日前まで

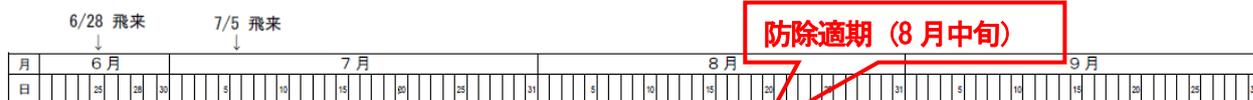
※液剤の場合

薬剤名	10a当たり使用量	使用時期
キラップ フロアブル	2,000倍 (希釈水量 60~200ℓ)	収穫14日前まで

<ウンカ類>

本年は現況ではウンカ類の飛来数は少ないですが、今後も高温が続くと予想されるため、ウンカ類の発生には注意が必要です。そのため、特に10月以降に収穫するほ場については、トビイロウンカの発生状況に注意し、**防除適期 (第2世代幼虫が発生すると考えられる8月中旬)**に防除を実施しましょう。(防除薬剤は下表参照。)

なお、夢つくしは穂ぞろい期防除と時期が重なるため、基幹防除で対応してください。



6月28日
飛来

飛来成虫	卵	第1世代幼虫	成虫	卵	第2世代幼虫	成虫	卵	第3世代幼虫	成虫
------	---	--------	----	---	--------	----	---	--------	----

7月5日
飛来

飛来成虫	卵	第1世代幼虫	成虫	卵	第2世代幼虫	成虫	卵	第3世代幼虫
------	---	--------	----	---	--------	----	---	--------

トビイロウンカの発生予想パターン図 (病害虫防除所 7月12日作成)

◆ 防除薬剤 (稲作ごよみ記載の薬剤)

薬剤名	対象病害虫	10a当たり使用量
アプロード ロムタン モンカットF粉剤DL	ウンカ類 コブノメガ 紋枯病	3~4kg

※液剤の場合

薬剤名	10a当たり使用量
アプロード 水和剤	1,000倍
+MR. ジョーカー-EW	2,000倍
+モンセリンフロアブル	1,500倍

飼料用米の管理について

平成30年8月2日
 J A 福岡京築
 京築普及指導センター

1 生育・気象の概況について

本年は、田植え後の気温が高く推移しています。そのため、飼料用米も主食用米と同様に、生育が昨年より1日程度早くなっています。

また、今後も気温が高い日が続くと予想されていますので、穂肥や病害虫防除について、適期を逃さずに作業できるよう、本情報を参考に計画を立てましょう。

2 穂肥について

品種	田植日	出穂日 (予想)	穂肥時期の目安		
			1回目	2回目	施肥量
夢あおば	6月20日	8月19日	8月1日	1回目の7~ 10日後	1回目、2回目と もに硫安15kg/10a
	6月25日	8月21日	8月3日		
ミズホチカラ	6月20日	9月3日	8月14日		
	6月25日	9月5日	8月16日		

3 病害虫防除について

本年はトビイロウンカや吸汁性カメムシの発生が多くなると予想されますので、下表を参考に、**基幹防除を必ず行う**とともに、必要に応じて補正防除を行いましょ。

また、昨年稲こうじ病の発生が多かったほ場では、今年も発生する可能性が高いので、補正防除を行いましょ。

※ 個人で養鶏農家等と契約し、籾出荷される場合は、家畜へ籾のまま給餌されることがあり、出穂後の農薬使用が制限されますので、防除の際は事前にJ A等にご相談ください。

(ただし、下表のキラップは出穂後も使用可能)

J A出荷の場合は、J Aで籾摺り後、実需者に出荷するので、出穂後も防除できます。

◆ 主な防除薬剤

	薬剤名	使用量 (10aあたり)	対象病害虫等	散布時期
基幹防除	アプロードロムダン モンカットF粉剤DL	3~4 kg	ウンカ、コブノメイガ、 紋枯病	出穂前
補正防除	キラップ粉剤DL またはキラップ粒剤	3 kg	ウンカ、カメムシ類	収穫14日前まで
	モンガリット粒剤	3~4 kg	稲こうじ病、紋枯れ病	収穫45日前まで

**除草剤、農薬の使用にあたっては、使用基準を確認して、
 周辺に飛散の無いように十分注意しましょう。**